

子どもたちのために、世界中で

海外の取り組み

子どもたちのスポーツの環境をすばらしいものにしようと、海外でも様々な取り組みがなされています。

～エレナ・ゲンチッチの言葉より～

エレナ・ゲンチッチ

セルビア出身。ベオグラード大で歴史・哲学を8年間学び、卒業後70年代にユーゴ代表としてフェドカップへ出場した他、グランドスラム大会にも出場。イバノセビッチ、セレス、ジョコビッチらのジュニア時代の育成を担った。



「ランキング・システムについて」

ノルウェー、デンマーク、スウェーデンではU14、U12のランキングを作っていない。そして、ヨーロッパテニス協会でもU12のランキングを廃止した。その理由は、子どもたちに余計なプレッシャーを与えないためである。

「一番大切なこと」

子どもたちに教える上で一番大切なのは、「決して必要以上のプレッシャーを与えないこと」。その子のためと思い、やりすぎたり言い過ぎたりすることに十分気をつけなければならない。



「日本のトップジュニアを教えて感じたこと」

数日感、日本の子供たちを指導してみて、日本の子はセルビアの子たちよりもはるかに規律正しいと感じた。しかし、それがマイナスを生んでいるように感じた。それは、自分の考えを待たない、持てなくなっているのではないかという点である。きっと日本の社会で生活していく分にはまったく問題ないのである。しかし、テニスでは違う。試合で勝利を得るためには、次々と決断を迫られる。自分の考えを持って自分で決断しなければならない。そのためにもまずは、子供たちの主体性を育む環境が必要ではないでしょうか。

～アメリカ ジュニアサッカー界より～

アメリカには、サッカーユース関連の加盟団体が複数存在しています。その中の一つにAYSO (American Youth Soccer Organization)があります。AYSOでは、「キッズゾーン」と呼ばれるプログラムを展開しています。これは、近年、ユーススポーツに関わるプレーヤーやコーチ、親のネガティブな行動・暴力行動がメディアに取り上げられることが増えてきたことを受けて、この傾向に歯止めをかけるために開始されたプログラムです。「キッズゾーン」は、サイドライン上のネガティブな行動を排除することを目的とし、写真のようなサインを使ってキャンペーンを行っています。



☆☆☆ 左写真の内容です ☆☆☆

警告！

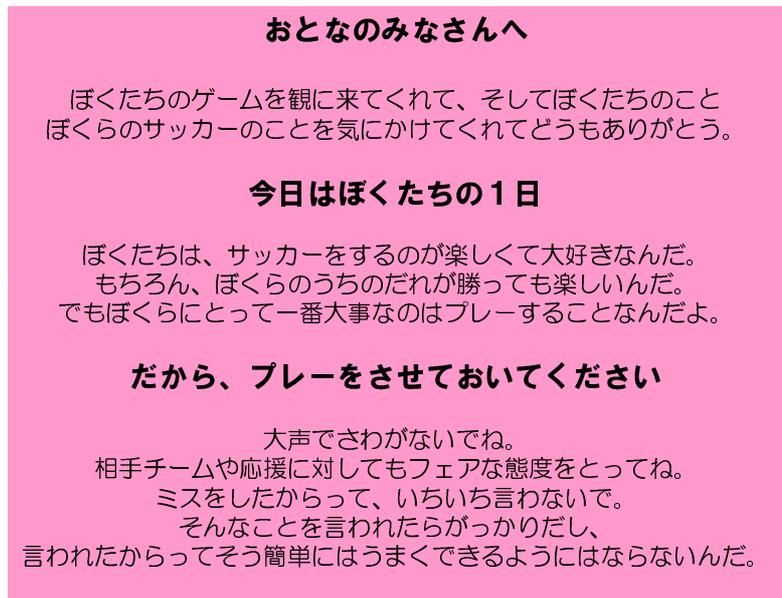
あなたはキッズゾーンへ入ろうとしています。
以下の注意書きに従うのならウェルカム！
従えないのなら、お引き取りを！

- ・キッズがNo.1
- ・勝つことではなく楽しみがすべて
- ・ファンは応援するのみ
- ・怒りは不要
- ・レフェリー（ボランティア）を尊重する
- ・怒鳴らない、ののしらない
- ・禁煙
- ・帰りにゴミを残さない
- ・子供たちの良い手本となる

～ 子どもたちのために！ ～

スイスサッカー協会

スイスサッカー協会でもさまざまな取り組みが積極的に行われています。
下に示しているのは、キッズサッカー用のポスター「今日は僕たちの1日」です。



下の文章は、スイスサッカー協会こども向け絵本の前文、「パパへの手紙」です。
この絵本は、子どものサッカー生活を描いた絵本ですが、合わせて、大人向けに、それぞれの場面での考え方、望ましい関わり方についてのメッセージも含まれています。

Fユース (U-9) の子どもからパパへの手紙 スイスFAこども向け絵本前書きより

パパ、パパがこないだピッチの外に置いてあったゴールによじ登ってレフェリーに文句を言ったでしょ。あの時、僕はすごく頭にきて泣きそうになったんだ。あんな怒り方、今まで見たことなかったよ。たぶん、レフェリーが間違ったんだと思う。でも、僕がたとえパパの言うように「レフェリーのせい」で試合に負けたんだとしても、そんなことはどうでもよくて、僕はとっても楽しかったんだ。

わかってほしいんだ、パパ。僕はプレーしたい、それだけなんだよ。僕は楽しみたいんだ。だから、僕がプレーしているときには、「パスしろ!」とか「シュートだ!」とか、叫び続けるのはやめて。パパの言うことはあっているのかもしれないけど、僕が緊張してしまうんだ。

パパ、もう一つあるんだ。試合中にコーチが僕のことを交代させても、怒らないで。僕はベンチに座ってみんながプレーしているのを見るのだって楽しいんだよ。僕らは大勢いるし、みんながプレーしなきゃだめでしょ。それから、僕にサッカーシューズをきれいにするやりかたを教えてください。僕のなんだからパパがやってくれなくていいんだ。僕が自分でできるようにならなきゃいけないんだよ。それからスポーツバッグは僕が自分で持ちたいんだ。バッグにはチームの名前が書いてあるから、僕がサッカー選手だってまわりのみんながわかるだろ?僕、それが好きなんだ。

パパ、お願い。試合の後にママに「今日は勝った」とか「負けた」とかって話すのはやめて。ママには僕が「とっても楽しんでた」って伝えてほしいんだ。それから、僕がすごいシュートを決めたから勝った、って言うのもやめてね。だって、そうじゃないんだもの。僕がシュートを決めたのは、仲間で僕にいいパスをくれたからなんだよ。勝ったのは、僕らのチームのゴールキーパーが必死に相手のシュートを防いでくれて、チームの仲間が全員でせいっぱいがんばったからなんだ。(コーチが僕らにそう教えてくれるんだ)

怒らないでね、パパ。こんなことを書いてしまったけど。

僕、パパが大好きなんだ。練習に遅れてしまうので、これでおしまいにするね。練習に遅刻すると、今度の試合にはじめから出してもらえないんだよ。

じゃあね。

